「ふれあい旬間」に寄せて

2015/11/25

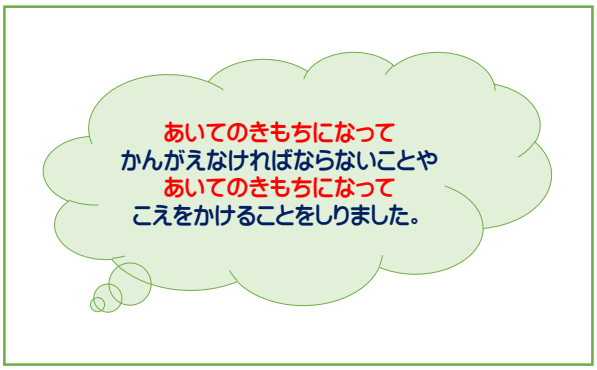
今日は最初に私の小学校の頃の　にがい思い出　を聞いてください。

私には３歳年下の弟がいます。小学校の頃は家で相撲をとってよく遊びました。風船つきをして遊んでいたときのことです。風船をついた私の指先が弟の目に当たってしまいました。弟はとても痛がりました。その日父と母につれられて弟はお医者さんに行きました。私は父と母に「目はとても大事なところ。気をつけなきゃいけないよ！」と強く叱られました。

それから数年経って弟は４年生になりました。学校の視力検査で視力が落ちたというお便りをもらってきました。私は弟の目のことがずっと気になり始めました。弟は目医者さんに診てもらった結果、眼鏡をかけることになりました。眼鏡ができあがって、初めて弟が家で眼鏡をかけた日のことを私は忘れることができません。弟の言った言葉は、私の心にずっと残ることになったのです。「姉ちゃん、世の中ってこんなにあかるかったんだね！」

私は弟にもうしわけないことをしてしまったと思いました。風船つきのときに痛めたことが原因であったかはわかりません。でも、弟がいつ頃か視力を落として、見えづらい目で世の中のものを見てきたことを知った時、私は真すぐ弟の顔を見ることができませんでした。

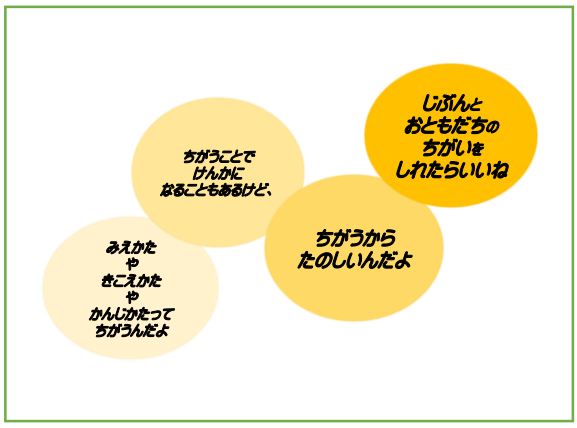
その日を境に私が弟にできることは何かを考えました。『このくらいの位置なら見える？』『もっと前においでよ』相手の気持ちになって考えて、温かい声をかけていかなければならないことを私は知りました。



さて、全校の皆さんにしっかりと考えてほしいことがあります。

１学期にあるお母さんが校長室に訪ねてきてくれました。そのお母さんは、南小の子どものことを心配されてお話しに来てくれました。「この前、あすなろ学級の子どもさんに対して悪口を言っているのを聞きました。その言葉を聞いたときとても心がいたくなりました。校長先生、もし全校のみんなにお話しをするときがありましたら、上手にお話しをしていただきたいと思います。お願いします。」といった内容でした。

11月19日、「ちがいはたのしい」というお話を、遠藤野ゆり先生がしてくださいました。
みえかたやきこえ方や感じ方は人によってちがうんだよ！ちがうことでケンカになることもあるけど、ちがうから楽しいの、自分とお友だちのちがいをしれたらいいね、
そんなおはなしでした。



１年１組でお勉強をしているお友だちもいます。
６年４組でお勉強をしているお友だちもいます。
あすなろ学級でお勉強をしているお友だちもいます。
県立子ども病院の院内学級で病気と闘いながらお勉強をしているお友だちもいます。
みんなこの南小学校の大切なお友だちです。

なにかができるとか、
できないとかで、
にんげんのかち・にんげんのおもさ
がきまるものでは
ありません。

何ができるとか、できないとかで、人間の価値が決まるものではありませんし、人としての重さが決まるものではありません。
ちょっと自分とはちがうところがあるとかで人を馬鹿にしたり、からかったりしたりすること、それはいいことでしょうか？
ちょっと自分とはちがう人に対して、馬鹿にするような言葉をいったり、からかったりすることを、私はそのことの方が恥ずかしいことであると思うのです。

みてください。赤ちゃんは皆さんのようにお話しができなかったり、歩くことができなかったり、でも、いけない人ですか？

おばあちゃん。忘れることが多くなったり、腰が曲がったりして上手くお仕事ができません。
でも、いけない人ですか？

車いすテニスせかいチャンピオン　くにえだしんごせんしゅ

私が尊敬する車いすテニスの世界チャンピオン、国枝慎吾さんです。足に障がいを持っていて歩くことはできませんが、障がいを克服してテニスの世界チャンピオンとして活躍しています。

小学校のとき、私は弟のけがや言葉をきっかけに、他の人のために自分ができることを考えなければならないことをしりました。私は皆さんに、自分がどうしたらよくなっていくか、他の人の為になにができるかを考えながら生きていく人になってもらいたいと思っています。

今日のお話を終わりにします。

以上